



# 運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和元年11月号 第201号

(令和元年11月30日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール [tou-asu@netjoy.ne.jp](mailto:tou-asu@netjoy.ne.jp)

## ◆最近の主な動き

### ・都民フォーラム開催 テーマ:「地域活動は、今」 11月20日(水)

今年度の都民フォーラムは、「地域活動は、今」をテーマに、東京都教職員研修センターで開催されました。まず、大原会長の挨拶に続き、藤本事務局長は、少子高齢社会や地球温暖化など地域を取り巻く環境の変化について説明。続いて、「カタクリの会」の磯崎正さん、「国分寺市高木町自治会」の櫻井幹三さん、「エコネット町田・真光寺川を清流にする会」の山本隆治さんが、それぞれの活動について発表。その後、抱えている課題や将来の展望について意見交換が行われました。会場からは、非常に参考になる話が多かった、市民運動と自治会活動には共通の悩みがある、課題解決には個々の努力も必要だが、人と人の接点を増やしていくことの大切さを感じた等の声が寄せられました。



活動報告される皆さん

### ・施設見学会実施 (都生会連) 11月6日(水)

当日は、立川を早朝に出発し、2014年にリニューアルオープンした山梨県立リニア見学センター「どきどきリニア館」に到着。早速、歴代リニア車両の模型や超電導体の特性を活かした超電導ラボを見学し、磁力浮上、磁力走行が体験できるミニリニアに乗車。その後、シアターでは時速500kmの走行を映像と振動で体感。東京-大阪間を約1時間で結ぶ世界最高速リニア中央新幹線は、環境にも配慮しCO<sub>2</sub>の排出量の削減も見込まれ、7年後の運転開始を目指し、様々な試験を行っている真最中でした！



リニア見学センターにて



\*\*\*\*\*

おじゃまします 事務局です <115>



## ◆西原自然公園を育成する会～雑木林の若返り



西原自然公園

西武新宿線田無駅と西武池袋線ひばりが丘駅とを結ぶバスに田無駅から乗り「文華女子高校前」で降りると、ほどなく「西原自然公園」に着く。「武蔵野の面影を残した公園」「街の中の小さな里山」というイメージが似つかわしいたまたまいである。自然公園を名乗っているからには、人間の手を入れずまさに「自然」のままにというイメージを持ってしまいが、そんなに自然は甘くはない。最近、郊外の住宅地で人が住まなくなった空き家が放置され



伐採作業のメンバー



木漏れ日差す公園内

て、雑草やツタが生い茂りながらジャングル化する例もある。

この公園は、武蔵野の雑木林の面影をあえて残した公園として整備されたものであり、1979年(昭和54年)6月開園。面積は20013.03㎡(約6,000坪)。この西東京市の西原自然公園の保全・管理を行っているのが、「西原自然公園を育成する会」であり、11月初旬、訪問して手入れの様子をみさせていただいた。訪問当日の作業は、樹木の更新作業、いわゆる伐採、そして下草刈り。まず公園内をそぞろ歩いて見ると、思った以上に木々が多く都市公園とは全く趣を異にする。途中、幹回り1メートルを超える

かと思われる杉、大木が倒木となって横たわっていた。この10月に関東地方に大きな爪痕を残した台風により倒れ

たものだそうだ。

さて、放置すれば宅地でさえ雑草の餌食でジャングルと化してしまうこともあるが、公園はなおさら本当のジャングル、密林になってしまうかもしれない。その昔から里山の雑木林は薪をとり炭を焼き、はたまた落ち葉を集めて肥料にすると二重三重に生活のためになくてはならない存在だった。そしてその雑木林は持続的に維持するために計画的に昔から人手をかけて、結果として明るい林として維持されて来たという。もちろん今は、雑木林に薪や炭、堆肥を求めないので、意図的にそれをしなくてはならない。その作業をボランティアとして、西原自然公園を育成する会の人たちが担っているのである。業者に頼むと一本伐採するには最低でも10万円からかかるとのこと。

伐採作業を離れたところから見学させていただいたが、4~5人ぐらいのチームでチェーンソーを使い、手際よく伐採を行っているのを見ると、どう見たって園芸職人である。聞くと経験者がいるわけではなく、あくまでもボランティアとして始めたとのこと。当日は、伐採チームとは別に下草刈りをしている人もいて、黙々と作業をしていた。はたから勝手な感想を言わせてもらえれば、伐採や草刈りは雑然としたものをスッキリさせる行為であり、ストレス解消にもなるかもしれない。ただ、ちょっと少しだけならそうかもしれないが、切っても刈っても圧倒的な量があれば、そんな生易しいものじゃないなと思直しました。今回見学させていただいた率直な感想ですが、雑木林を徐々に若返らせるこれらの作業を担っているメンバーの皆さんも、確実に雑木林と共に若返っているなど感じられました。ありがとうございました。



はじめまして 東創協です<001>



現在、東京のあすを創る運動を担って活動している運動団体は、生活学校、生活会議を合わせて83団体。生活学校はピーク時には190団体を擁していたが、現在は25団体。生活会議はその多くが多摩地区に片寄っていて、区部に少ない。結果として、東京都内62区市町村内で運動団体の空白の地域が少なからずある。もちろん、東京都内全域、多くの地区で様々な形での地域活動、ボランティア活動が、今日も行われている。そんな活動を尋ねて、新たな企画、「はじめまして 東創協です」を随時掲載して参ります。まずは第1回。

#### ◆墨田区NPO法人「てーねん・どすこい倶楽部」



御徒町駅前からウォーキングスタート

墨田区に3つある高齢者福祉センターの一つ、元気高齢者施設「立花ゆうゆう館」を指定管理者として運営にも携わっているのが、特定非営利活動法人「てーねん・どすこい倶楽部」。定年を迎えた人たちを主体として、経験や技能、趣味や特技を活かしたボランティア活動で地域社会に貢献・参画して住みよい地域づくりを目指そうと、平成14年に結成された。子育て支援や日本語指導など多岐にわたる活動を展開しているが、てーねん・どすこい倶楽部では、活動の種別に応じた事業部制を敷いている。①日本語教育支援部、②シニア人材バンク部、③情報紙部、④セミナー部、⑤IT支援部、⑥健康・シニア支援部、⑦子育て支援部、⑧個別支援部、⑨生きがい講座部、⑩食育支援部、⑪

経営・起業支援部、⑫施設管理運営事業部(立花ゆうゆう館の運営)である。この広範囲の事業を、60人余りの会員でカバーしているのである。

その事業の詳細については、機会を見つけて紹介したいと思いますが、今回は11月初めに開催された、指定管理者として運営管理している「立花ゆうゆう館」のウォーキング倶楽部の湯島天神・菊まつりウォーキングに同行させていただきました。このウォーキングの講師は、てーねん・どすこい倶楽部理事、そして日本ウォーキング協会公認指導員でもあるゆうゆう館の神田道弘館長です。9時半に錦糸町駅に集合し、御徒町まで電車で移動してウォーキング開始。参加者は40名。その参加者の中には、てーねん・どすこい倶楽部会員が数名、ボランティアでウォーキングをサポートしていました。当日は天気にも恵まれて、絢爛豪華で見事に咲き誇る菊まつりを堪能して神田明神を経由して、JR御茶ノ水駅まで歩いて、事故もなく無事に解散となりました。お疲れさまでした、そしてありがとうございました。

▽ひとこと 時代の移り変わりとともに世相も街の風景も変わっていきます。特に昨今の変貌は目を見張るばかりです。2020年オリパラに向けて国立競技場も完成するなど、今後ますます一層の変化が見られるでしょう。湾岸地区をはじめとするタワーマンション林立の風景も目になじんできましたが、一方では寂れていく地区もあります。東京はまだ総体としての人口が維持されていますから、地方に見られるような急激な人口減少に伴う寂れ感はありませんが、今後、都心回帰が強まり、より便利な地区に人が集まる傾向が強まっていくように感じられます。長年住み慣れた町、買い物に通った商店街の風景も気が付かないうちに、場合によってはめまぐるしく変わっているのかもしれない。東京のあすを考える時、そんな街の風景、商店街の変化が、ヒントを与えてくれるかもしれません。次号以降、そんな身近な街の変化、変貌についても実地検分をしてレポート、ご紹介していきたいと考えております。今号からスタートしました「はじめまして 東創協です」ともどもご期待ください。(竜)